

2013 BUSINESS REPORT

HAZAMA ANDO CORPORATION

平成26年3月期 第2四半期報告書

平成25年4月1日から平成25年9月30日



株式会社 安藤・間

(呼称：安藤ハザマ)

証券コード：1719



代表取締役会長
小野 俊雄

代表取締役社長
野村俊明

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに平成26年3月期第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）の事業の状況についてご報告申し上げます。

私たち「安藤ハザマ」は、平成25年4月1日に、安藤建設株式会社と株式会社間組が合併して誕生いたしました。

建設産業におきましては、景気回復による建設需要の増加が見込まれる一方で、建設コストの上昇等が懸念され、先行きは不透明な状況にあります。私たちは、これまで両社が築き上げてきた実績をもとに、全社員の力を同じベクトルに向けて結集し、合併によるシナジーを最大限に発揮させることで、「安藤ハザマ」ブランドを確立し、強い経営基盤と高い収益力をもつ、存在感の高い企業を目指してまいります。

今後とも、株主の皆様のご期待にお応えできますよう努力してまいりますので、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

企業理念

- 1 | ものづくりを通して、
社会の発展に寄与します。
- 2 | 確かな技術と情熱で、
お客様満足を追求します。
- 3 | 新たな価値を創造し、
豊かな未来を実現します。



コーポレートシンボルは、スクエアのフォルムを横切るように大きな流れが渦を巻き、堅実さと躍動感、力強さを同時に表現しています。

安定感のあるスクエアフォルムは、これまでの歴史の中で培った豊富な実績や信頼、そしてお客様本位の誠実な姿勢を表します。

また、大きな渦には、安藤ハザマがそれらの価値を大切にしつつ、枠に収まらない新たな挑戦を果敢に続け、新しい価値を創造していこうという思いを託しています。

そして、動きを感じさせるデザインによって、安藤ハザマが特定の型に留まらず、常に進化し、拡大し続ける姿を示しています。

受注高・売上高

受注高（個別）は、海外工事の受注が堅調であり、また、国内建築工事での大型案件の受注等により、期初予想比で446億円（37.2%）増加しました。

売上高は、完成工事高の増加等により、期初予想比で57億円（3.6%）増加しました。

(受注高(個別))

164,651 百万円

(売上高)

165,766 百万円

損益

主に国内土木工事における採算性の向上により、営業利益は期初予想比で29億円（323.7%）増加しました。

また、合併による負ののれん発生益105億円を特別利益に計上し、四半期純利益は期初予想比で25億円（25.4%）増加しました。

(営業利益)

3,813 百万円

(経常利益)

3,368 百万円

(四半期純利益)

12,411 百万円

財政状態

当社は平成25年4月1日付で安藤建設株式会社と合併したため、以下の増減内容は主にこの要因によるものです。

総資産は、現金預金や受取手形・完成工事未収入金などの増加により、前期末比（以下同じ）で1,038億円増加し、2,457億円。負債は、支払手形・工事未払金等および短期借入金などの増加により、839億円増加し、1,929億円。純資産は、資本剰余金および利益剰余金の増加などにより198億円増加し527億円となり、自己資本比率は21.2%となりました。

(自己資本比率)

21.2%

【ご注意】平成25年4月1日付の安藤建設株式会社との合併に伴い、平成25年3月期第2四半期および平成25年3月期の各数値は、株式会社間組のものを記載しております。また、対前期および対前年同四半期増減率は、株式会社間組の平成25年3月期（平成24年4月1日～平成25年3月31日）の各数値との比較によるものです。

当期間の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、復興需要等による下支えに加えて、政府によるデフレ脱却・経済成長政策への期待感の高まりや円高是正等により、鉱工業生産に持ち直しの動きが見られ、企業収益や業況判断も改善に向かいました。

今後についても、海外景気の下振れ等、国内景気を下押しするリスクが引き続き存在するものの、各種政策・対策等の効果を背景に、景気回復の動きが確かなものになることが期待されています。

当社グループの主たる事業である建設産業におきましては、復興関連事業が本格化し、政府建設投資も堅調に推移していますが、国内の民間建設投資は上向きつつあるものの本格的な回復には至らず、また、建設技能労働者不足が一段と進むなど、依然厳しい経営環境が続いております。

こうした状況のもと、当社は、事業規模の拡大と経営の合理化・効率化等を図り、収益力を強化することを目的に、平成25年4月1日、安藤建設株式会社と合併し、株式会社安藤・間として新たにスタートいたしました。

当グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,657億円（期初予想1,600億円、期初予想比+3.6%）、営業利益38億円（期初予想9億円、期初予想比+323.7%）、経常利益33億円（期初予想1億円、期初予想比+32億円）、四半期純利益は124億円（期初予想99億円、期初予想比+25.4%）となりました。

今後について

建設産業におきましては、関連予算の執行による政府建設投資の堅調な推移や景気回復による建設需要の増加が見込まれますが、一方で労務費・資材価格の高騰による建設コストの上昇等が懸念され、先行きは不透明な状況にあります。

このような状況の下、当社は、基本戦略である「築き上げてきた実績をもとに、補完性を活かして、技術力・営業力・コスト競争力を再構築し、事業の強化と効率化を推進する」、「継続的な成長のために経営資源の最適配分と必要な投資を行う」を推し進めることにより、『安藤ハザマ』ブランドを確立し、強い経営基盤と高い収益力をもつ、存在感の高い企業を目指してまいります。

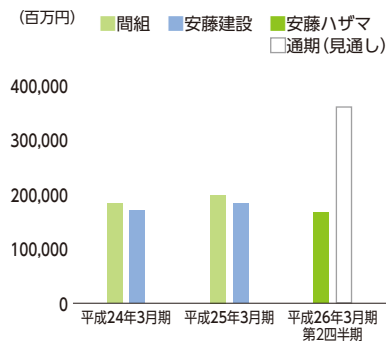
■ 通期連結業績見通し

売 上 高	358,000百万円
営 業 利 益	8,100百万円
経 常 利 益	6,600百万円
当 期 純 利 益	13,800百万円
1 株 当 たり 当 期 純 利 益	86.94円

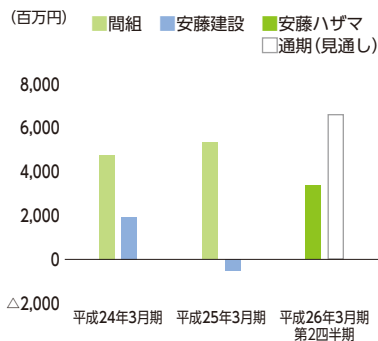
主要財務データ

■主要経営指標（連結ベース）

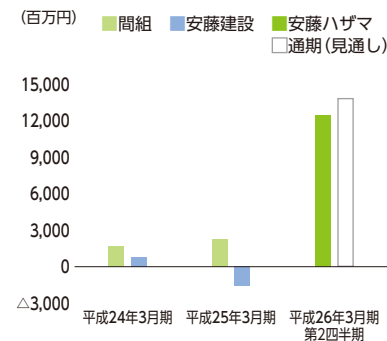
売上高



経常利益



四半期(当期)純利益



区 分			平成24年3月期	平成25年3月期	安藤ハザマ 平成26年3月期	
					第2四半期	通期 (見通し)
売上高	(百万円)	間組	182,049	197,899	165,766	358,000
		安藤建設	169,379	182,337		
営業利益	(百万円)	間組	5,915	5,612	3,813	8,100
		安藤建設	2,649	228		
経常利益	(百万円)	間組	4,779	5,336	3,368	6,600
		安藤建設	1,937	△542		
四半期(当期)純利益	(百万円)	間組	1,766	2,293	12,411	13,800
		安藤建設	806	△1,579		
総資産額	(百万円)	間組	133,176	141,879	245,708	—
		安藤建設	122,573	123,363		
純資産額	(百万円)	間組	30,557	32,844	52,723	—
		安藤建設	22,735	21,818		
1株当たり純資産額	(円)	間組	194.75	212.75	287.86	—
		安藤建設	272.35	258.19		
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	間組	15.38	20.69	78.17	86.94
		安藤建設	9.76	△19.10		
自己資本比率	(%)	間組	22.9	23.1	21.2	—
		安藤建設	18.4	17.3		

事業別の概況

土木事業

売上高 47,736百万円



■受注高

344億円（期初予想350億円、期初予想比△1.7%）となりました。事業別の内訳は、官公庁68.1%、民間31.9%です。なお、海外工事は全体の6.8%です。

（注）受注高等は個別ベースで記載しています。

<主な受注工事>

発注者（敬称略）	工事名
宮城県	北上運河河川災害復旧工事（その1）
国土交通省関東地方整備局	中部横断和田トンネル工事

■売上高・営業利益

売上高は477億円（期初予想440億円、期初予想比+8.5%）となり、営業利益は35億円となりました。

<主な完成工事>

発注者（敬称略）	工事名
東京都財務局	中央環状品川線五反田換気所下部工事
リサイクル燃料貯蔵株式会社	リサイクル燃料備蓄センター（第一棟）新設工事の内準備工事

建築事業

売上高 108,163百万円



■受注高

1,302億円（期初予想850億円、期初予想比+53.2%）となりました。事業別の内訳は、官公庁6.0%、民間94.0%です。なお、海外工事は全体の17.6%です。

（注）受注高等は個別ベースで記載しています。

<主な受注工事>

発注者（敬称略）	工事名
三井不動産株式会社	（仮称）ららぽーと富士見新築工事
Honda de Mexico, S.A. de C.V.	4EM-TM project (HDM新トランスミッション工場新築工事)
株式会社バイタルネット	バイタルネット新宮城物流センター新築工事

■売上高・営業利益

売上高は1,081億円（期初予想1,050億円、期初予想比+3.0%）となり、営業利益は5億円となりました。

<主な完成工事>

発注者（敬称略）	工事名
東大インタラクティブPFI株式会社	東京大学（本郷）総合研究棟（工学部新3号館）施設整備事業
福山通運株式会社	（仮称）福山通運西関東物流センター新築工事
医療法人丸山会	（仮称）丸子中央総合病院移転新築工事

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円、百万円未満切捨)

科 目	間 組 前期末 (平成25年3月31日)	安藤ハザマ 当第2四半期末 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産	108,623	182,904
現金預金	32,682	57,444
受取手形・完成工事未収入金等	55,474	96,269
未成工事支出金	6,654	7,022
その他	14,149	22,311
貸倒引当金	△338	△143
固定資産	33,256	62,804
有形固定資産	18,715	31,367
土地	13,292	21,447
その他	5,422	9,919
無形固定資産	320	1,084
投資その他の資産	14,220	30,352
その他	14,269	31,039
貸倒引当金	△48	△687
資産合計	141,879	245,708
負債の部		
流動負債	95,431	160,175
支払手形・工事未払金等	54,647	84,815
短期借入金	9,927	26,635
未成工事受入金	13,429	24,197
その他	17,427	24,527
固定負債	13,603	32,810
社債	—	984
長期借入金	4,578	16,259
退職給付引当金	8,672	14,317
その他	352	1,248
負債合計	109,035	192,985
純資産の部		
株主資本	32,573	50,513
資本金	12,000	12,000
資本剰余金	9,007	16,627
利益剰余金	11,664	23,601
自己株式	△97	△1,715
その他の包括利益累計額	244	1,556
その他有価証券評価差額金	244	1,454
繰延ヘッジ損益	—	1
為替換算調整勘定	—	100
新株予約権	26	23
少数株主持分	—	629
純資産合計	32,844	52,723
負債・純資産合計	141,879	245,708

連結損益計算書

(単位：百万円、百万円未満切捨)

科 目	間 組 前第2四半期累計 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	安藤ハザマ 当第2四半期累計 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	89,543	165,766
完成工事高	82,602	162,052
その他の事業売上高	6,941	3,713
売上原価	81,147	154,117
完成工事原価	74,803	151,353
その他の事業売上原価	6,344	2,764
売上総利益	8,396	11,648
販売費及び一般管理費	4,896	7,834
営業利益	3,499	3,813
営業外収益	156	344
営業外費用	858	789
経常利益	2,798	3,368
特別利益	46	10,597
特別損失	339	119
税金等調整前 四半期純利益	2,505	13,846
法人税等	1,168	1,359
少数株主損益調整前 四半期純利益	1,336	12,486
少数株主利益	—	74
四半期純利益	1,336	12,411

■完成工事



工事名：(仮称) 丸子中央総合病院移転新築工事（長野県）
発注者：医療法人丸山会



工事名：理想科学工業株式会社つくば研究学園事業所（仮称）建設計画（茨城県）
発注者：理想科学工業株式会社



工事名：国道45号尾肝要トンネル（北工区）工事（岩手県）
発注者：国土交通省東北地方整備局



工事名：フジクラ タイランド カビンブリ工場新築工事（タイ）
発注者：Fujikura Electronics (Thailand) Ltd.

■受注工事



工事名：(仮称)ららぽーと富士見新築工事（埼玉県）
発注者：三井不動産株式会社



工事名：4EM-TM project (HDM新トランスミッション工場新築工事)（メキシコ）
発注者：Honda de Mexico, S.A. de C.V.



工事名：丹波綾部道路和知トンネル工事（京都府）
発注者：国土交通省近畿地方整備局

会社の概況 (平成25年9月30日現在)

- 商号 株式会社 安藤・間 (呼称：安藤ハザマ)
(英文名：HAZAMA ANDO CORPORATION)
- 設立 平成15年10月1日
- 資本金 12,000,000,000円
- 目的
 1. 土木建築その他工事の調査、測量、企画、設計、施工、監理、技術指導の請負、受託およびコンサルティング業務
 2. 工事用品および機械器具の供給
 3. 不動産取引および不動産、有価証券の保有ならびに利用
 4. 土壌の調査・浄化工事の請負、廃棄物の収集、処理、処分等の事業およびこれらに関するコンサルティング業務
 5. 地域開発、都市開発および環境整備等に関する企画、設計ならびにコンサルティング業務
 6. 発電および電気、熱等エネルギーの供給事業およびこれらに関するコンサルティング業務
 7. 建築の請負を伴う不動産関連の特別目的会社への出資および出資持分の売買、ならびに信託受益権の保有および販売
 8. コンピュータの利用に関するソフトウェア、工業所有権およびノウハウの取得、開発、実施許諾ならびに販売
 9. 前各号に付帯する事業
 10. 前各号に関連する事業を他と共同経営しまたは他の事業に投資すること

当社のホームページもご覧ください



<http://www.ad-hzm.co.jp/>

ネットワーク

国内拠点

本社	〒107-8658 東京都港区赤坂6-1-20 ☎03-6234-3600
首都圏 建築第一支店	〒107-8658 東京都港区赤坂6-1-20 ☎03-6234-3710
首都圏 建築第二支店	〒107-8658 東京都港区赤坂6-1-20 ☎03-6234-3720
関東土木支店	〒107-8658 東京都港区赤坂6-1-20 ☎03-6234-3730
札幌支店	〒060-0061 北海道札幌市中央区南一条西8-1-1 ☎011-272-6500
東北支店	〒980-8640 宮城県仙台市青葉区片平1-2-32 ☎022-266-8111
東北建築支店	〒980-8640 宮城県仙台市青葉区片平1-2-32 ☎022-264-1711
北陸支店	〒950-0082 新潟県新潟市中央区東万代町1-22 ☎025-243-5577
静岡支店	〒420-8612 静岡県静岡市葵区追手町2-12 ☎054-255-3431
名古屋支店	〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内1-8-20 ☎052-211-4151
大阪支店	〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島6-2-6 ☎06-6453-2190
四国支店	〒760-0040 香川県高松市片原町11-1 ☎087-826-0826
広島支店	〒730-0051 広島県広島市中区大手町5-3-18 ☎082-244-1241
九州支店	〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名1-8-10 ☎092-724-1131
技術研究所	〒305-0822 茨城県つくば市刈間515-1 ☎029-858-8800

海外拠点

タイ、ベトナム、マレーシア、インドネシア、シンガポール、ミャンマー、カンボジア、ラオス、ネパール、トルコ、メキシコ、米国、ホンジュラス、ペルー

■ 取締役および監査役 (平成25年10月1日現在)

代表取締役会長	小野俊雄
代表取締役社長	野村俊明
代表取締役副社長 土木事業担当	肥後満朗
代表取締役副社長 建築事業担当	青木建
代表取締役副社長 管理本部担当	金子治行
取締役専務執行役員 建築事業本部長	植野寿憲
取締役専務執行役員 国際事業本部担当	岡部良信
取締役専務執行役員 建築事業本部担当	山崎光
取締役専務執行役員 社長室長	小島秀一
取締役常務執行役員 土木事業本部長	木下壽昌
取締役常務執行役員 管理本部長 兼 防災担当	小宮正則
監査役	木下素規
監査役	山田隆
※ 監査役	黒崎純一
※ 監査役 (非常勤)	江尻隆

(注) 1. ※印は、「会社法」第2条第16号に定める社外監査役です。

2. 当社は、監査役 黒崎純一氏および江尻隆氏を株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

■ 執行役員 (取締役兼務者を除く。平成25年10月1日現在)

専務執行役員	西田壽起	土木事業本部担当
専務執行役員	遠藤茂樹	建築事業本部副本部長 兼 技術統括部長
常務執行役員	杉本文雄	建築事業本部副本部長 兼 営業統括部長
常務執行役員	熊木徹	大阪支店長
常務執行役員	岩尾守	東北支店長
常務執行役員	福西清香	安全品質環境本部長 兼 防災担当 (副)
常務執行役員	世一英俊	技術本部長 兼 防災担当 (副)
執行役員	小手川良和	土木事業本部担当
執行役員	高井隆一	建築事業本部担当
執行役員	上野敏光	土木事業本部担当
執行役員	吉川大三	土木事業本部担当
執行役員	安原啓行	建築事業本部担当
執行役員	竹内孝光	土木事業本部担当
執行役員	千葉格	首都圏建築第二支店長
執行役員	田淵勝彦	大阪支店副支店長
執行役員	前原弘光	名古屋支店長
執行役員	小澤一也	首都圏建築第一支店長
執行役員	高阪克彦	建築事業本部営業統括部営業推進部長
執行役員	吉本朗	建築事業本部担当
執行役員	那須麗弘	社長室副室長 兼 人事部長
執行役員	北野敏彦	国際事業本部長
執行役員	福富正人	関東土木支店長
執行役員	辻正造	建築事業本部営業統括部営業第三部長
執行役員	菊地保旨	九州支店長
執行役員	富田正開	建築事業本部営業統括部営業第二部長
執行役員	麻生達三	広島支店長

株式の状況 (平成25年9月30日現在)

株式の発行 発行済株式総数

普通株式	177,080,158株
第Ⅲ種優先株式	875,000株
1単元の株式数	100株

(注) 第Ⅰ種および第Ⅱ種優先株式は、優先株主様からの取得請求により当社が自己株式として取得し、また、第Ⅳ種優先株式は、平成25年4月1日付の安藤建設株式会社との合併に伴い自己株式となりましたが、これらの自己株式は、平成25年9月27日までに全て消却いたしました。

株主の総数

当第2四半期末現在の株主総数……………44,335名
(うち優先株主2名)
期初比……………3,186名増加

普通株主 (上位10名)

株主名	所有株式数	株式数比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	20,497千株	11.58%
安藤ハザマグループ取引先持株会	7,077	4.00
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	6,659	3.76
株式会社みずほ銀行	6,476	3.66
安藤ハザマグループ従業員持株会	3,802	2.15
日本証券金融株式会社	3,355	1.89
朝日生命保険相互会社	2,616	1.48
三菱UFJ信託銀行株式会社	2,404	1.36
シービーホンコンシービーロンドンファンド135 ティアアンドディーアセットマネジメントリミテッド	1,633	0.92
株式会社SBI証券	1,630	0.92

(注) 1. 上記の株式数比率は、自己株式(8,501千株)を含めて算出しております。
2. 上記の所有株式数のうち、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社および日本マスタートラスト信託銀行株式会社については、信託業務に係る株式数を把握していません。

優先株主

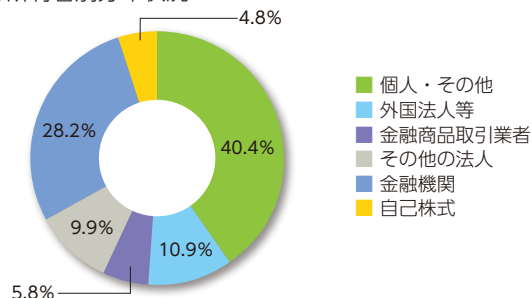
株主名(第Ⅲ種優先株式)	所有株式数
株式会社みずほ銀行	750千株
三菱UFJ信託銀行株式会社	125

新株予約権

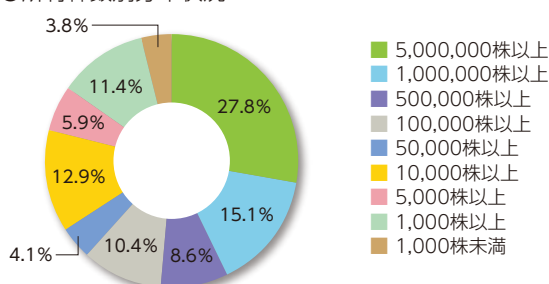
当社取締役・執行役員には株式報酬型ストックオプション、従業員(上級幹部のみを対象)には通常型ストックオプションを、それぞれ付与しております。(現在、新たな付与は実施しておりません。)

普通株式の分布状況

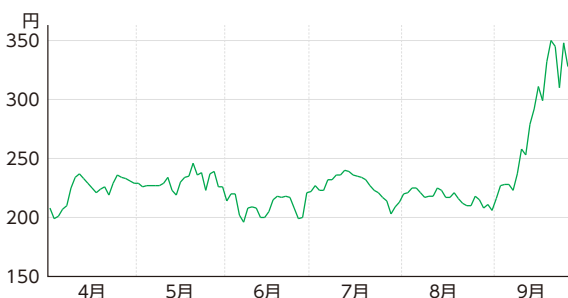
所有者別分布状況



所有株数別分布状況



株価の推移



事業年度	4月1日～翌3月31日
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿代理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 http://www.tr.mufg.jp/daikou/
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料。オペレータ対応) 受付時間 土・日・祝祭日等を除く平日9時～17時
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード 1719)
公告の方法	当社ホームページに掲載します。 公告掲載URL http://www.ad-hzm.co.jp/ir/announce.html ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は日本経済新聞に掲載いたします。

株式に関するお手続きについて

お手続きの内容		お問い合わせ窓口
<ul style="list-style-type: none"> ・届出住所等の変更届 ・配当金の振込指定 ・単元未満株式の買取・買増請求 ・その他株式に関するお問い合わせ 	証券会社に口座をお持ちの株主様	口座を開設されている証券会社 ＊株主名簿代理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできません。
	証券会社に口座をお持ちでなく、特別口座で株式を保有されている株主様	
	・旧間組の株主様	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ＊下記①参照
	・旧安藤建設の株主様	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ＊下記②参照

特別口座に関するお問い合わせ窓口

① [旧間組の株主様] 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料。オペレータ対応) 受付時間 土・日・祝祭日等を除く平日9時～17時 ＊三菱UFJ信託銀行の本店・各支店でもお取次ぎいたします。 ＊各種お手続き用紙のご請求は、以下のお電話・インターネットでも24時間受け付けております。 【専用ダイヤル】0120-244-479 (通話料無料。音声自動応答) 【インターネット】 http://www.tr.mufg.jp/daikou/
② [旧安藤建設の株主様] 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031 (通話料無料。オペレータ対応) 受付時間 土・日・祝祭日等を除く平日9時～17時 ＊三井住友信託銀行の本店・各支店でもお取次ぎいたします。 ＊各種お手続き用紙のご請求は、以下のインターネットでも24時間受け付けております。 【インターネット】 http://www.smtb.jp/personal/agency/

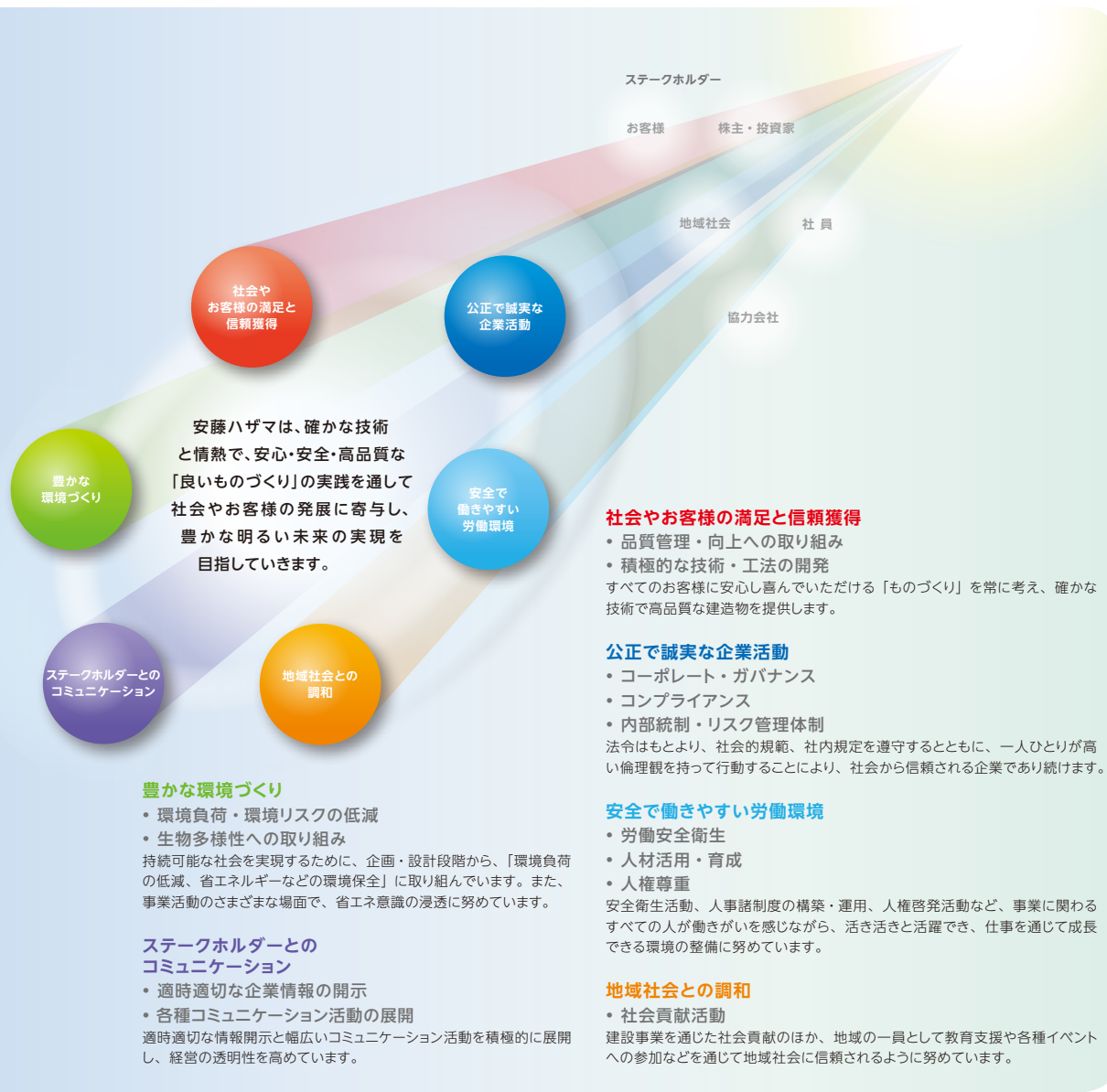
特別口座に記録された株式について

- ①株券電子化前に証券保管振替機構をご利用されなかった株主様の株式については、三菱UFJ信託銀行または三井住友信託銀行に開設された特別口座に記録されております。
特別口座は株式を売買するための取引口座ではありませんので、特別口座に記録された株式を売却するには、あらかじめ証券会社に株主の皆様が取引口座を開設し、株式の残高を振り替える必要があります。
- ②株主様の口座への振替請求、単元未満株式の買取・買増請求、届出住所等の変更、配当金の振込指定等につきましては、各口座管理機関の前記連絡先にお問い合わせください。

単元未満株式（1～99株）を整理したい場合（買取・買増請求）

- ①当社株式の売買単位（1単元）は100株であり、単元未満株式（1～99株）は市場では売却できませんが、以下の方法をお取りいただくことが可能です。
 - ・単元未満株式の「買取請求」…所有されている単元未満株式を当社にご売却いただくもの。
 - ・単元未満株式の「買増請求」…所有株式数が100株単位となるよう、当社から株式を買い増していただくもの。
- ②買取請求・買増請求の手続きは、単元未満株式が記録されている口座によって窓口が異なります。詳しいお手続き方法につきましては、各お問い合わせ窓口までお問い合わせください。

単元未満株式が記録されている口座	お問い合わせ窓口
証券口座	口座を開設されている証券会社へお問い合わせください。
特別口座	<p>〔旧間組の株主様〕 三菱UFJ信託銀行 http://www.tr.mufg.jp/daikou/ 電話 0120-232-711（通話料無料。オペレータ対応） 受付時間 土・日・祝祭日等を除く平日9時～17時</p> <p>〔旧安藤建設の株主様〕 三井住友信託銀行 http://www.smtb.jp/personal/agency/ 電話 0120-782-031（通話料無料。オペレータ対応） 受付時間 土・日・祝祭日等を除く平日9時～17時</p>



社会や
お客様の満足と
信頼獲得

公正で誠実な
企業活動

豊かな
環境づくり

安全で
働きやすい
労働環境

ステークホルダーとの
コミュニケーション

地域社会との
調和

安藤ハザマは、確かな技術と情熱で、安心・安全・高品質な「良いものづくり」の実践を通して社会やお客様の発展に寄与し、豊かな明るい未来の実現を目指していきます。

ステークホルダー

お客様 株主・投資家

地域社会 社員

協力会社

社会やお客様の満足と信頼獲得

- ・品質管理・向上への取り組み
 - ・積極的な技術・工法の開発
- すべてのお客様に安心して喜んでいただける「ものづくり」を常に考え、確かな技術で高品質な建造物を提供します。

公正で誠実な企業活動

- ・コーポレート・ガバナンス
- ・コンプライアンス
- ・内部統制・リスク管理体制

法令はもとより、社会的規範、社内規定を遵守するとともに、一人ひとりが高い倫理観を持って行動することにより、社会から信頼される企業であり続けます。

安全で働きやすい労働環境

- ・労働安全衛生
- ・人材活用・育成
- ・人権尊重

安全衛生活動、人事諸制度の構築・運用、人権啓発活動など、事業に関わるすべての人が働きがいを感じながら、活き活きと活躍でき、仕事を通じて成長できる環境の整備に努めています。

地域社会との調和

- ・社会貢献活動
- 建設事業を通じた社会貢献のほか、地域の一員として教育支援や各種イベントへの参加などを通じて地域社会に信頼されるように努めています。

豊かな環境づくり

- ・環境負荷・環境リスクの低減
 - ・生物多様性への取り組み
- 持続可能な社会を実現するために、企画・設計段階から、「環境負荷の低減、省エネルギーなどの環境保全」に取り組んでいます。また、事業活動のさまざまな場面で、省エネ意識の浸透に努めています。

ステークホルダーとのコミュニケーション

- ・適時適切な企業情報の開示
 - ・各種コミュニケーション活動の展開
- 適時適切な情報開示と幅広いコミュニケーション活動を積極的に展開し、経営の透明性を高めています。



表紙：東京大学（本郷）総合研究棟（工学部新3号館）施設整備事業（東京都）

「東京大学（本郷）総合研究棟（工学部新3号館）施設整備事業」（東京都文京区・東京大学本郷キャンパス内）は、内田祥三氏の設計により昭和14年（1939年）に建設された、歴史的建築物「旧工学部3号館」の復元・新築事業です。

当事業は東京大学の発注によるPFI事業で、当社はコンソーシアム代表企業として参画し、施工を担当しました。建物は地下1階・地上9階建て、延べ床面積約26,500㎡の規模で、低層部分（1～5階）は同キャンパス・弥生門の顔として70年以上学生に愛されてきた内田ゴシック様式を復元し、高層部分は壁面をセットバックさせ、復元部分を際立たせるようキャンパスの景観に配慮した改築を行いました。

また、低層部分の入り組んだデザインや細かなディテールを復元するため、旧建物を解体前に3Dスキャナで撮影し、実施設計を忠実に行いました。その結果、黄土色のスクラッチタイルにあった特徴的なワラビ（ひっかき時にできる粒）の形状や色むらも再現し、本事業のコンセプトである「東大らしさの継承（内田ゴシック様式の復元）」を実現しました。



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づき、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。